

# 目次

第1章 事業の概要.....	2
1-1 事業名.....	2
1-2 事業の概要.....	2
1-3 学習ターゲットと目指すべき成果.....	2
1-4 今年度の主な取り組み.....	2
1-5 事業の実施期間.....	3
1-6 事業の実施体制.....	3
1-7 連携委員会等実施履歴.....	6
第2章 高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進.....	7
2-1 多様性が生み出す未来の社会を見据えて.....	7
2-2 多様な個性で輝く生徒達の職業的・経済的自立をサポートするためにできること.....	7
2-3 地域連携について地元の現状・課題.....	8
第3章 受入施設関係者へのアンケート調査の結果報告と討議.....	10
3-1 地元企業を対象とした就労アンケート結果の審議.....	10
第4章 就業支援ツールの開発.....	15
4-1 実際に活用できる就業支援ツールへ.....	15
4-2 職業実践モデル『はたらこう検定』(R5)の開発.....	16
4-3 『就職支援システム 性格診断』と『高等専修学校版ジョブ・カード』の連携.....	19
4-4 就業支援ツールを用いた実証講座について.....	21
4-5 就業支援ツールの今後と高等専修学校版職業実践モデル.....	31
第5章 まとめ.....	32

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校が実施した令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

# 第1章 事業の概要

## 1-1 事業名

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

学びのセーフティネット機能の充実強化（高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進）

『地方都市における地域ネットワークを活用した高等専修学校版職業実践モデルの構築』

## 1-2 事業の概要

「進路先のひとつとして積極的に選ばれる高等専修学校へ」

多様な個性を持った生徒達が、自分らしさを発揮しながら『職業的・経済的自立』を目指して学ぶ場である高等専修学校は、まさにダイバーシティの実現を担う人材を養成する重要な教育機関である。

本事業では、高等専修学校において職業観を育む学びの中から、生徒各自が興味を持ったテーマに関して、実際の仕事とリンクする様々なコンテンツを提供し、各生徒の特性に合った職業で将来的に未永く生業に就くことができる力を持った人材の養成（在学中の支援）と、卒業後に生業に就き続けるために必要な支援のあり方（卒業後の支援）について、生徒を中心として家庭・保護者及び地域社会と連携した独自のネットワークシステムを活用した、新しい職業教育モデルを構築することを目的とする。

## 1-3 学習ターゲットと目指すべき成果

【学習ターゲット】

地方都市で学ぶ高等専修学校生全般

【目指すべき成果】

- ・STEAM 教育のノウハウを取り入れた、楽しみながら働くことへの基本姿勢が学べる新しい就業支援ツールの開発と利用により、責任を持って仕事に取り組むことができる人材の養成。
- ・基本的な生活習慣と職業教育に必要な基本的スキル（ビジネスマナーやコミュニケーションスキル等）を身に付け、情報活用能力や各分野で必要な専門技術を持った人材を養成し、安定的な職業生活を送ることができる地域連携の仕組み作りとそのノウハウの普及。

## 1-4 今年度の主な取り組み

①高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進

- ・共通理解を推進するための実施委員会及び分科会を実施（期間中4回実施）。

②職業実践モデル『はたらこう検定』（令和5年度版）の開発

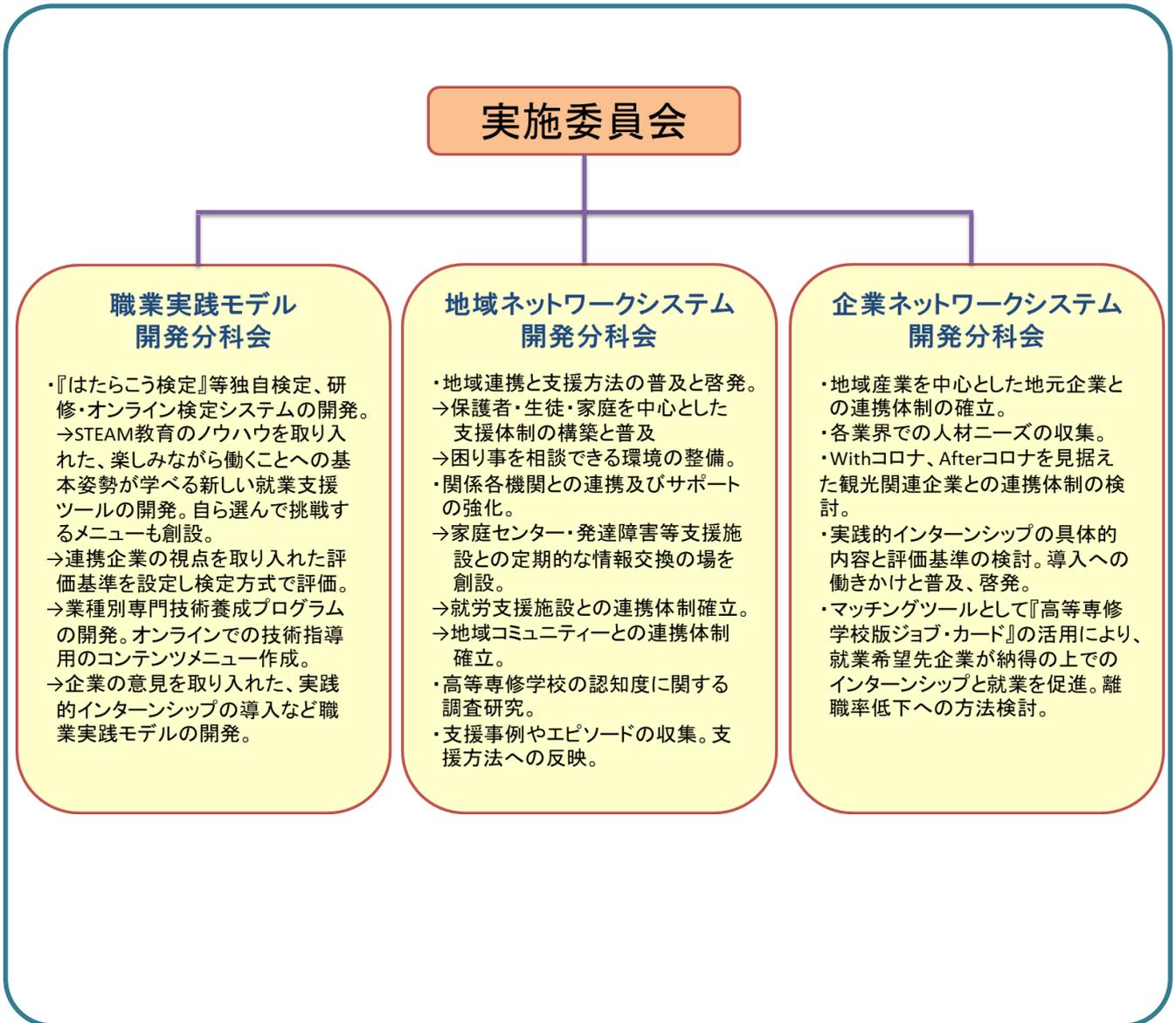
- ・STEAM の視点から見た農業に関する職業学習コンテンツを開発。
- ・開発コンテンツ（就業支援ツール）を用いた実証授業の実施。

## 1-5 事業の実施期間

令和5年7月4日 ～ 令和6年3月1日

## 1-6 事業の実施体制

実施委員会、地域ネットワークシステム開発分科会、企業ネットワークシステム開発分科会、職業実践モデル開発分科会の4部門で構成される。



## (1) 実施委員会

- ・各連携組織との意思統一。構築していくシステムの統一的理解の増進。
- ・地域ネットワークシステム構築のためのノウハウを検討し、まとめる。
- ・地域連携により期待される生徒のスキルアップ項目の内容をまとめる。

名称		役割等
1	大岡学園高等専修学校	総括
2	高等専修学校神戸セミナー	地域 NS 開発
3	猪名川甲英高等学院	地域 NS 開発
4	豊岡市中学校校長会	地域 NS 開発
5	豊岡市城崎中学校	地域 NS 開発
6	北近畿地産の会	企業 NS 開発 職業モデル開発
7	城崎温泉旅館協同組合	企業 NS 開発 職業モデル開発
8	豊岡商工会議所	企業 NS 開発 職業モデル開発
9	豊岡市社会福祉協議会 地域福祉課	地域 NS 開発 企業 NS 開発 職業モデル開発
10	正法寺地区自治会	地域 NS 開発
11	豊岡市教育委員会 学校教育課	地域 NS 開発

## (2) 地域ネットワークシステム開発分科会

- ①生徒・家庭・保護者を中心とした支援プログラムの構築と普及
- ②関係各機関との連携及びサポートの強化。
- ③高等専修学校の認知度に関する調査研究。
- ④支援事例やエピソードの収集。支援方法への反映。

名称		役割等
1	大岡学園高等専修学校	総括
2	高等専修学校神戸セミナー	実施
3	猪名川甲英高等学院	実施
4	豊岡市中学校校長会	実施
5	豊岡市立豊岡北中学校	実施
6	豊岡市立豊岡南中学校	-
7	豊岡市立日高東中学校	-
8	豊岡市教育委員会 学校教育課	実施
9	豊岡市社会福祉協議会 地域福祉課	実施 企業 NS 開発 職業モデル開発
10	ひきこもり等支援プロジェクトドーナツの会	-

11	ひょうご発達障害支援センター	-
12	正法寺地区自治会	実施
13	兵庫県立芸術文化観光専門職大学	-
14	若者サポートステーション豊岡	

### (3) 企業ネットワークシステム開発分科会

- ①地域産業を中心とした地元企業との連携体制の確立。
- ②各業界での人材ニーズの収集。
- ③マッチングツールとして『高等専修学校版ジョブ・カード』の活用により、生徒の就業希望先企業が納得の上でのインターンシップと就業を促進。離職率低下への方法検討。

名称		役割等
1	大岡学園高等専修学校	総括
2	北近畿地産の会	実施 職業モデル開発
3	城崎温泉旅館協同組合	実施 職業モデル開発
4	株式会社 at きなし	職業モデル開発
5	株式会社たじまにあ	職業モデル開発
6	株式会社中村建設ナカフサ	職業モデル開発
7	豊岡商工会議所	実施 職業モデル開発
8	豊岡市商工会	職業モデル開発
9	豊岡市社会福祉協議会 地域福祉課	実施 地域 NS 開発 職業モデル開発
10	豊岡観光イノベーション	職業モデル開発
11	但馬信用金庫 大開支店	職業モデル開発
12	株式会社メイワパックス	-
13	社会福祉法人 ぶどうの枝福社会出石愛の園	-
14	株式会社北星社	-

### (4) 職業実践モデル開発分科会

- ①職業教育を切り口とし、STEAM 教育のノウハウを取り入れた、楽しみながら働くことへの基本姿勢が学べる新しい就業支援ツールの開発。

名称		役割等
1	大岡学園高等専修学校	総括
2	北近畿地産の会	実施 企業 NS 開発
3	城崎温泉旅館協同組合	実施 企業 NS 開発
4	豊岡商工会議所	実施 企業 NS 開発
5	豊岡市商工会	企業 NS 開発

6	豊岡市社会福祉協議会 地域福祉課	実施 地域 NS 企業 NS
7	株式会社 at きなし	企業 NS 開発
8	株式会社たじまにあ	企業 NS 開発
9	豊岡観光イノベーション	企業 NS 開発
10	株式会社中村建設ナカフサ	企業 NS 開発
11	但馬信用金庫 大開支店	企業 NS 開発

## 1-7 連携委員会等実施履歴

### ○第1回 合同委員会

(実施委員会・地域ネットワーク開発分科会・企業ネットワーク開発分科会・職業実践型開発分科会)

日時：令和5年10月16日(月)：14:00~16:00

場所：豊岡市民プラザ市民活動室C/D・オンライン

### ○第2回 合同委員会

(実施委員会・地域ネットワーク開発分科会・企業ネットワーク開発分科会・職業実践型開発分科会)

日時：令和6年1月17日(水)：14:00~16:00

場所：豊岡市民プラザ市民活動室C・オンライン

### ○第3回 合同委員会

(実施委員会・地域ネットワーク開発分科会・企業ネットワーク開発分科会・職業実践型開発分科会)

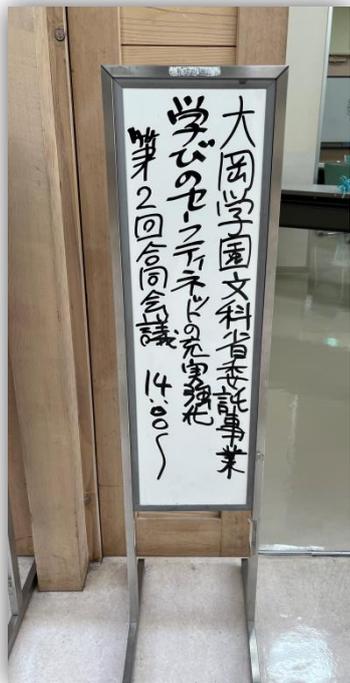
日時：令和6年2月22日(木)：14:00~16:00

場所：豊岡市民プラザ市民活動室C・オンライン

### ○合同成果報告会

日時：令和6年2月8日(木)：15:00~17:00

場所：アルカディア市ヶ谷・オンライン ※澤村校長が現地で実施内容を報告。



## 第2章 高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進

### 2-1 多様性が生み出す未来の社会を見据えて

本校では、令和3年度在学生徒の内、障害者福祉関係手帳所持者が19.6%、発達障害や学習障害の生徒の割合が31.4%、サポートファイル<sup>※1</sup>所持者の割合が29.4%と、全体の56.7%の生徒が何らかの身体的精神的課題を抱いて、日々の学校生活に励んでいます。多様な生徒がそれぞれの個性を発揮しながら学ぶ様子を目の当たりにしたとき、生徒が将来生活していく社会には『ダイバーシティ&インクルージョン(以下 D&I)』というキーワードが重要であると考えます。

本校が位置する兵庫県豊岡市では、地方都市が抱える大きな問題の一つである人口減少への向き合い方として、市の基本構想において、目指すまちの将来像を「小さな世界都市-Local&Global City-」と定めています。この実現のために「多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風が満ちているまち」を目指し、「女性、高齢者、障害者や外国人等の多様な人々が、地域社会や地域経済の担い手として期待され、現に活躍するまちづくり」<sup>※2</sup>を推進することを掲げています。その取り組みの一環として、2021年度からの10年間を計画期間とする、全国的にも先進的な『ジェンダーギャップ解消戦略』<sup>※3</sup>を策定しました。

このように地方行政でも社会の中での多様性を認め合い、様々な人材を活用してこれからの地域を活性化していこうという気運の高まりのあるこのタイミングに、高等専修学校での多様な学びの形を作り出す特色ある職業実践モデルを、地域との連携しながら開発することは、大変意義深いことであると確信しています。

※1：「障害や特性があり継続した支援を必要とする方に、継続的な支援を行うために、保護者と支援機関、支援機関と支援機関の連携の手段として活用する」(豊岡市 HP より)ことを目的に、豊岡市が対象者に対して作成支援を行う情報共有ツール。

※2：豊岡市 HP より。

※3：豊岡市の HP によると、戦略の目指す姿を「固定的な性別役割分担を前提とした仕組みや慣習が見直され、お互いを尊重し支え合いながら、いきいきと暮らしている」と定め、職場、家庭、地域、学校等を含めたまち全体のジェンダーギャップ(社会的・文化的に作られた男女格差)の解消に向けた取り組みを進める、とある。

### 2-2 多様な個性で輝く生徒達の職業的・経済的自立をサポートするためにできること

従来の学校は、学力というただ一つの基準で生徒の能力を判断し、選別することとなります。しかし多様な個性を持った生徒が増える中で、従来の画一的な教育プログラムで学ばせることは難しく、今後多様な学びの形を作り出すことが重要となってくると考えます。

そこで、多様な基準を導入し、異なる能力や特性の生徒を受け入れ、職業教育を軸として職業的・経済的自立をサポートしていくことは重要であり、特に本校では『D&I』が最重要なアジェンダであると考えています。また、生徒の生活の基盤となる家庭に関して現状をみると、経済的な面での不安はもちろん、保護者自身に支援を必要とする家庭も増加傾向にあり、専門機関との連携による継続的なフォローアップも重要となっています。本人はもちろん、家庭・保護者も含めて、安心して一緒に子供の将来に向かって取り組める環境の整備も、重要項目の一つであると考えます。

GIGAスクール構想によるオンライン授業の導入は、多様性のある生徒たちにとって在宅学習

(家庭学習)と対面学習を選択できるようになり、今後はその内容の充実が次のステップとなります。「働く」ということを切り口に、様々なコンテンツを用意し、どこからでもアクセスできる、どこからでも自分自身を発信できる学びの環境整備こそ、高等専修学校が担う新しい役割であると考えます。

これまで構築してきた地域連携システムをスキームアップし、各生徒が自身の個性を生かした職種に就き、定着できる仕組みづくりを進めます。

## 2-3 地域連携について地元の現状・課題

### ①就職に関する現状と支援及び卒業生へのアフターフォローについて

- ・高卒求人における指定校推薦枠の少なさ。
- ・企業側による高等専修学校の認知度の低さ。  
→企業連携体制の確立が重要に。地元企業の力を借りながら、地元の人材を共に育てていく姿勢を理解してもらう。
- ・法定雇用率を満たす企業の少なさ。(管内で約 140 社程度)
- ・卒業生へのアフターフォロー、卒業生追跡調査の実施  
→定期的な情報交換の場の創設など、就職先企業との連携強化が必要に。

### ②生徒・家庭・保護者への支援について

- ・支援家庭の増加。片親家庭との連携【例】令和3年度入学生の片親の割合→25% (16名中4名)  
→連絡が取りにくい家庭との連携は親だけでなく、祖父母等の親族との連携も必要に。
- ・子育ての悩みや就職・進学等についての『困りごと』を、学年を問わず早い段階で相談できる身近な場の情報が不足。  
→相談の場、交流の場の創設。必要に応じて定期的訪問などの対策も視野に。

### ③地域コミュニティの現状

- ・高齢化により、コミュニティごとに実施していた清掃活動ができなくなっている。  
→地域コミュニティと連携し、生徒のボランティア活動の場として活用。  
→コミュニティの会議に参加。地域での生徒の活躍の場を広げるとともに、高等専修学校の取り組みを知る機会をつくる。
- ・『豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略』の策定(2021年3月)による地域におけるダイバーシティの進展。
- ・兵庫県で初の県立専門職大学(芸術文化観光専門職大学)の開校(2021年4月)による、新しい文化的刺激にふれあう機会の増大。  
→行政や新しい大学との連携で、多様な個性を持つ生徒の活躍の場がさらに拡大できる好環境に。

### ④発達障害や不登校等、特別な支援が必要な生徒に対する支援について

- ・学校の規模等が要因で専門職員の雇入れが難しく、生徒に合った相談窓口や福祉サービスの判定が難しい。  
→教育委員会やこども家庭センター、相談支援施設などとの継続的で確実な連携が必要不可欠な状況。
- ・福祉サービスを必要とする生徒の場合、教職員が開拓する必要があるが、職員数が少なく限られている現状では渉外に出ることが難しい。  
→関係各機関からの情報を、継続的により効率よく確実に収集できる連携システムの構築が不可

欠。教員の負担軽減にもつながる。

・公的な支援機関等は、支援生徒の担当者が変わると振出しに戻り、担当者との関係を再び築き上げていかなくてはならないというケースが多く、連携がスムーズにいかなくなることもある。

【課題①】前担当者とこれまで築き上げてきた連携が途絶える。

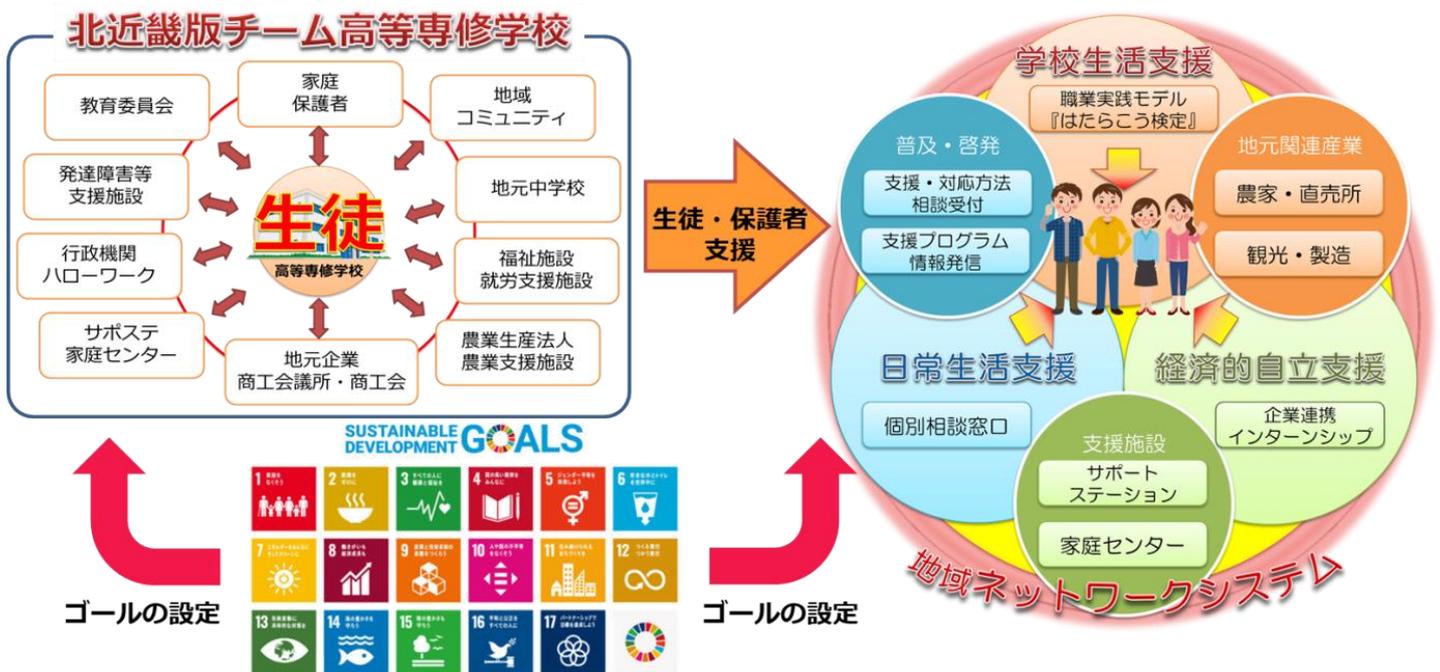
【課題②】個人情報公開について、その重要性は重々承知であるが、担当者が変わることで振出しに戻り、情報が得にくくなる。

【課題③】学校区分の中で、高等専修学校の存在を忘れられることがある。

→支援が必要な生徒に対して、継続的な支援と課題解決につながる地域連携の構築が必要に。

・生徒の支援状況に応じた、無理のない受け入れを。

→地元の特別支援学校との情報交換と連携の強化も必要。



## 第3章 受入施設関係者へのアンケート調査の結果報告と討議

### 3-1 地元企業を対象とした就労アンケート結果の審議

#### 本事業の目的と概要

#### 「生徒の個性を理解してもらえる企業・施設との連携構築とは」

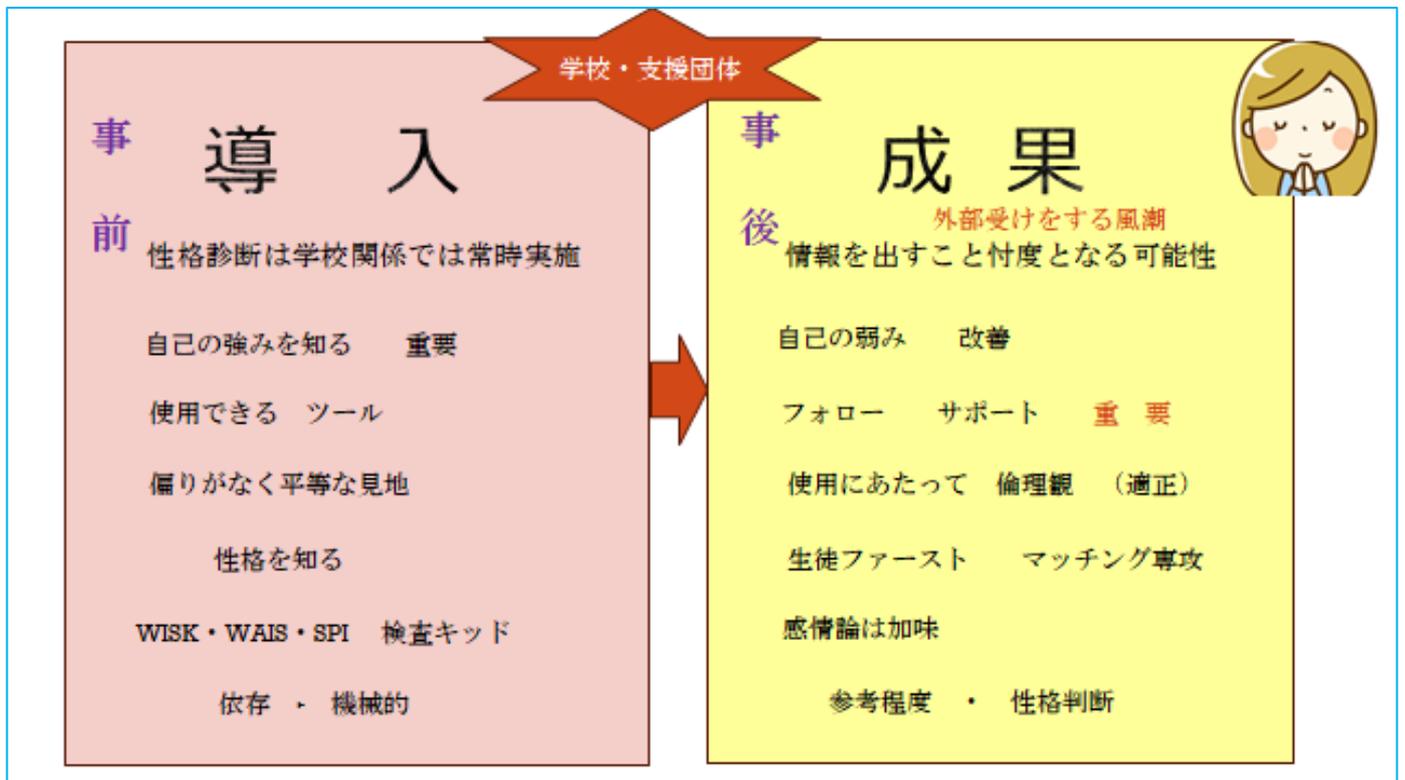
ジョブカードと併用	↔	労使にとってプラス材料
将来の目標が実現できる	↔	成果を愉しむ
実践での仕事とリンク	↔	コンテンツの実用性の探求
特性に合った職業	↔	興味抱き行動に移す
人材の養成と、必要な支援	↔	施設・企業・学校の連携
地域と連携したネットワークシステム	↔	情報共有地元教育
インターシップ・アルバイトの奨励	↔	相互にプラス効果

生徒の特性を個性と捉え、働く環境を整えてもらうためには、企業や施設に特性を認知してもらう必要があります。それには、個人のスキルや目標、働く意識をしっかりと抱かせ、受け入れ側にも知っていただいたうえで入社後の良好な関係を維持する必要があります。

- ① ジョブカードで就労意欲とマッチング度を測り、お互いにプラス効果を目指します。
- ② インターシップ、アルバイトを通じて相互も関係を良好に気づかせていきます。
- ③ 地域とのつながりを構築していきながら情報共有を行い、きめ細やかに実施していきます。
- ④ 個人の将来の目標を達成する上で、就労先へ事前に個人の情報提供することは必要な点もある。

個人情報やプライバシーの観点から考えながらツールの開発に望んでいく。

委員会で協議し、目的をもって考えていくことにより、行動に移すことの大切さが理解でき、将来目指していきたい就労先に入るためには、これから何にチャレンジしどのような行動を執るべきなのかを問いただすことが出来る。



(指導者側)

《導入にあたり》

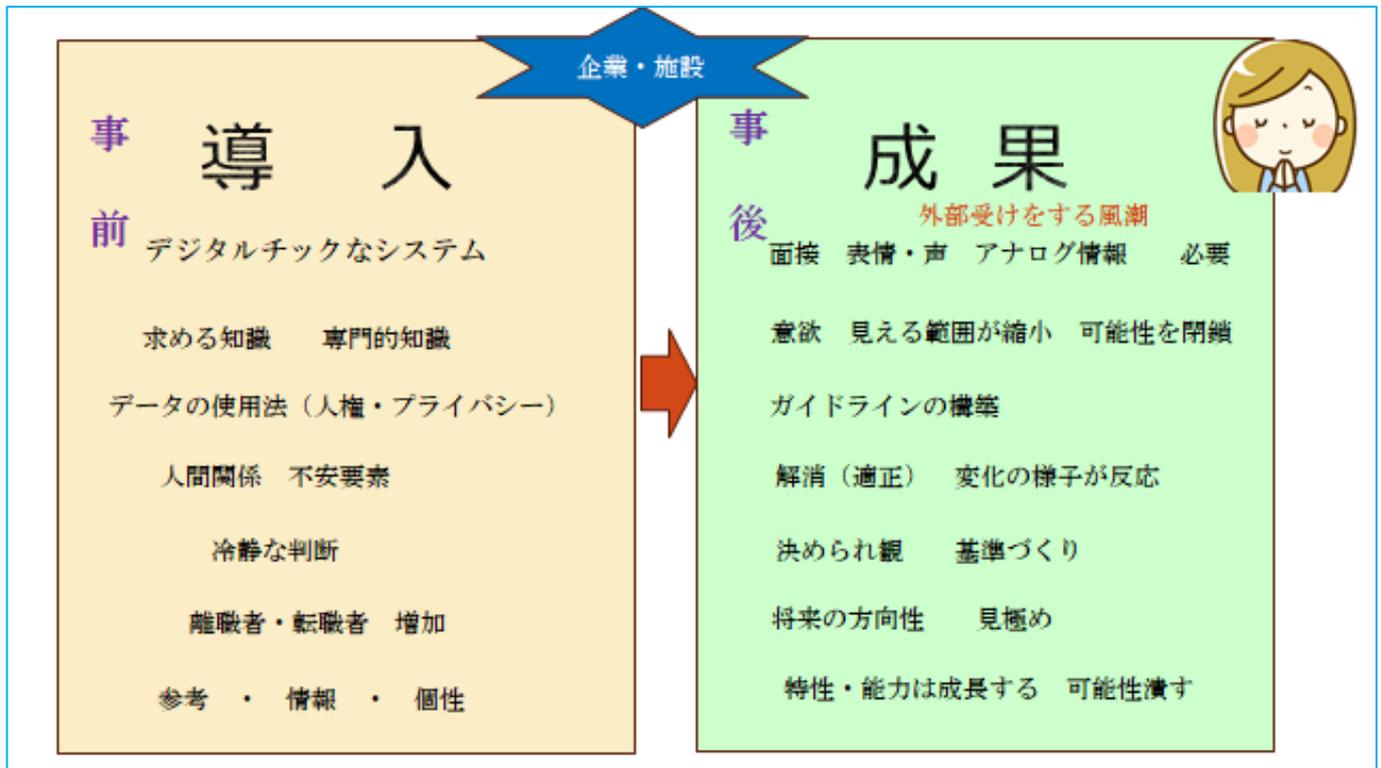
ツールの情報が性格判断であり、偏りのない平等な視野で客観的な判断が出来ることを望んでいる。

自己の強みを理解でき、弱点を知ることによって就労先への選択に役立つ知識が得られる。人間関係や新たな職場環境では、不安と困惑のはざまで揺れており、性格判断としてツールを捉えればよい。

《成果として》

個人情報を出すにあたり、忖度となるケースや外部受けを狙うことも考慮すべきであるので注意が必要である。個人の意欲や可能性が閉鎖されたり、見える範囲が狭まってくる。

ツールのマッチングが中心となってしまう、参考程度で考慮する方がよい。(性格判断) 倫理観に注意して実施すべきである。



(就労側)

《導入にあたり》

デジタルチックシステムでスマホ感覚できるのは良いツールですが、専門的知識を求めているのでツールのデータが使用可能かどうか不明である。

機械的で冷静な判断が執れると思うが、実際に冷静な判断、情報、性格が加味されることも必要である。

《成果として》

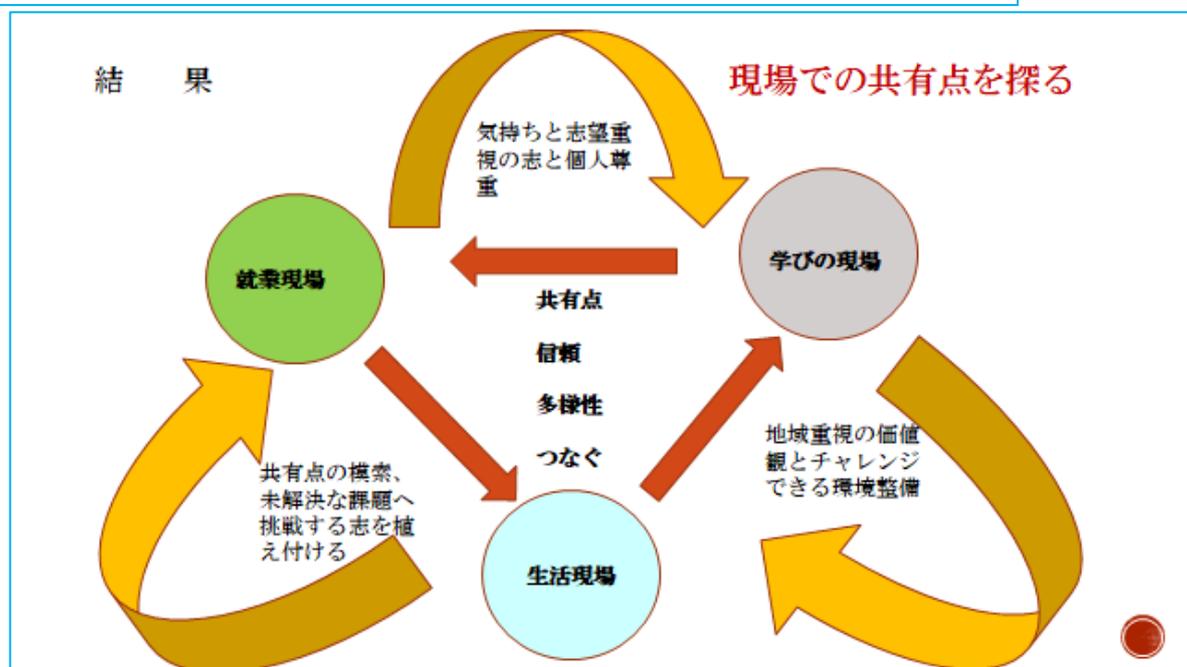
面接での表情や声はアナログ情報として必要であるので、ツール作成のガイドラインの構築が不可欠である。

決められ観や一方向からの見方ではなく様々な視点から情報を取入れることは、両者においても必要である。

特性や能力は入ってから成長し変化していく。可能性をデジタル情報から削除しないように心がけるルールづくりが必要である。

## ～至急に取り組むポイント～ 必要十分条件とは

- ①地元企業で貢献を促すために必要とする努力の共有
- ②地域連携に向けて教育の質を上げる取り組み
- ③子育ての悩み → 生活の改善、家庭の理解、社会生活の向上  
相談できる身近な場所の創設（保護者対象）
- ④企業、施設の理解と性格判断による就労支援ツールの開発継続  
→地元の意識に重きを置いたコンテンツづくりを地域全体で考える



労使相互に共通認識をもって努力を共有することが大切である。それには地域発の新たな時代にマッチしたツールを探求することにより、送り出す側と受ける側とが意見を出し合う事により互いの長所を考慮して短所を認め合うことが可能となるはずである。

指導の教育的質の向上をはかることにより、引き受ける側の環境が変化していく。そして、人材の供給と需要のバランスがスムーズに実施されることで労使の信頼度が増し、多様性のある人材の就労を適材適所の就労場へ導いてくれると思う。

就業の場、生活の場、学びの場の3つの場が共有して多様性を認め合い、信頼へと繋ぐことが重要である。3つの場が新たな環境を生み出し、就労を目指している生徒たちにとって「ゆとり」と「時間」を共有する場であり、この中で過ごしていく生徒に住み心地の良い空間を作ってあげることが重要である。

以上のことを踏まえて、地域全体で、地元で活躍できる人材を送り出し、持続的に成長させる人材養成が不可欠である。

故に、就労ツールを開発し、アプリの開発に力を注ぐことは私たちの責務でもある。

## 「学校・支援団体の就業ツール開発に向けたポイント」

職業観を育む学び

生徒に興味を持たせる環境

生活とリンクした仕事

特性に合った職業

人材の養成・必要な支援

地域のネットワークシステム

職業教育の実現



共有する包容力

情報提供

コンテンツ作る

インターシッ

家庭・企業・学校

相互の魅力を捻出

時間と知恵を共有

職業観を学び興味を持たせることにより、生活とリンクしたコンテンツを創る。特性をもつ生徒に対して特性を考慮した職業が選択できるように人材養成や必要な支援を継続させることが、家庭、企業、学校が地域ネットワークシステムの中で相互の魅力を捻出することができる。職業教育の実現を目指していくことが重要であり、インターシッ、アルバイトを通して持続可能な職業選択ができるように努力を継続していき、地域に根ざした喜ばれる職業選択が可能となる。

そのためにも、日常より受け入れ側（企業、施設）並びに学校（中学校）とのコミュニケーションをとりつつ、より詳細な関係を築いていくことが大切である。三社のつながりを確固たるものにしていかなければならない。就労支援ツールを協議し、完成に近づける為には多様な企業や団体・施設・教育関係者の方の力をおかりしなければいけません。

私たちがこの事業で習得した一番の成果物は、様々な分野や団体、組織によって見方と考察の方向が異なることです。

しかし、ベクトルの方向が異なったとしても、数多くのベクトルが存在したとしても、合成したベクトルは大きさを調整し、方角を修正した新たなベクトルを形成していくのです。

私たちは、その結果を念頭に置いてこの課題に向かって解答を模索していかなくてはならない。

## 第4章 就業支援ツールの開発

### 4-1 実際に活用できる就業支援ツールへ

昨年度までは、職業学習コンテンツ、性格診断、高等専修学校版ジョブ・カードの各支援ツールを利用するためには、それぞれのURLにアクセスする必要があり、ブラウザのお気に入り等に登録していない場合は改めて最初からアクセスの手順を踏むこととなり、手間が掛かっていた。しかし今年度の改正で、すべての支援ツールが一つのページにまとまったため、授業や家庭での学習で本ツールの利用がし易くなり、活用の機会が増えることが予想される。

就業支援ツールの内、職業学習コンテンツについては、図1のようなイメージのもと、3年前から特に赤枠の部分の開発を進めてきた。農業用ドローンに関しては、オンライン技術指導用の動画コンテンツを充実させ、講師には実際の農業用ドローンオペレーターを起用した。

#### 【『はたらこう検定（仮）』受験まで】

#### 多様な職業ニーズに対する基本姿勢が徹底的に学べる新しい就業支援ツール

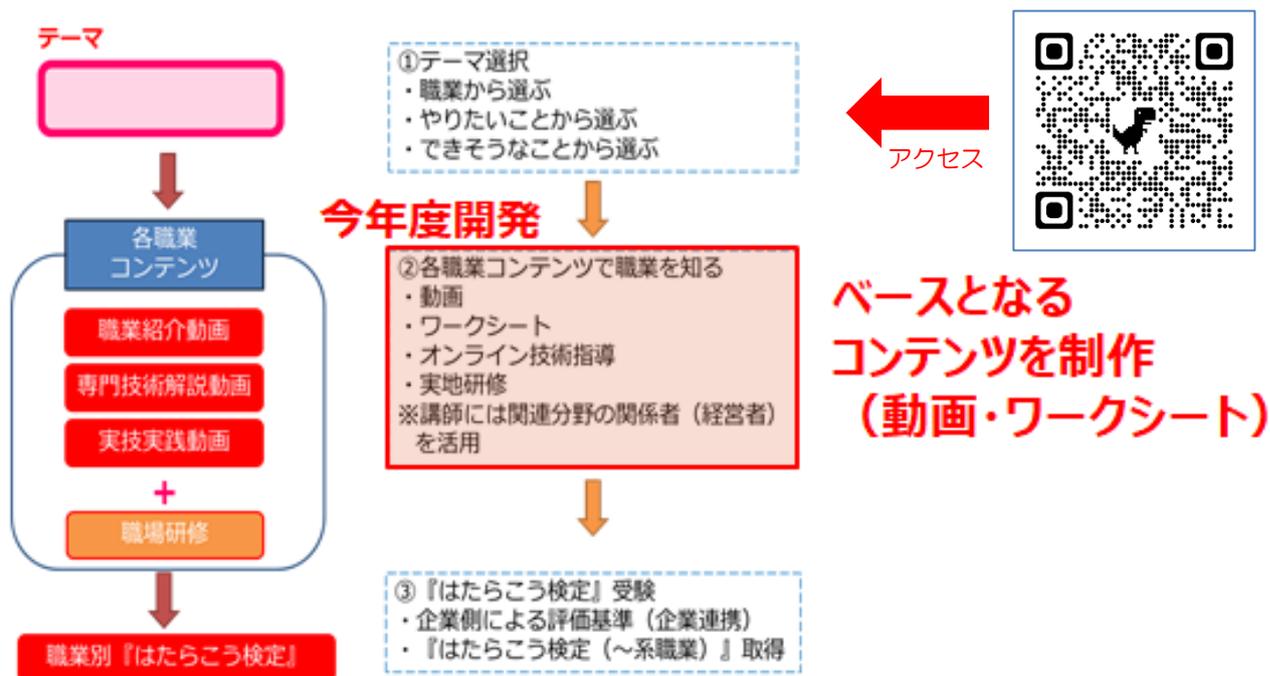


図1：新しい就業支援ツールのイメージ

今年度も将来的に地域の担い手不足が懸念される農業向けコンテンツの充実を図る方向で調整した。

## 4-2 職業実践モデル『はたらこう検定』(R5) の開発

高等専修学校版職業実践モデルの開発の一つとして、継続して取り組みを行っているのが、就業に直結した実践的なインターンシップなどを取り入れた職業実践モデル『はたらこう検定』の開発である。このモデルは、楽しみながら多様な職業ニーズに対する基本姿勢が徹底的に学べる新しい就業支援ツールとして位置付けられ、職業教育を切り口とし、STEAM 教育のノウハウを取り入れた教育モデルである。

STEAM 教育とは、「STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で A を定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習」<sup>※1</sup>であり、文部科学省も推進している新たな教育手法である。先にも記した通り、本事業では、高等専修学校の役割の一つである『職業教育』を STEAM 教育の視点で再構成し、「楽しみながら仕事内容を知る」という点に注意しながら、教科・科目の学びを社会で使える様に意識付けを行うこととした。

普段授業で活用できるのはもちろん、オンラインでどこでも生徒が興味を持った職業に関して情報が得られるように各職業をオンラインコンテンツ化し、職業観を養成するツールの一つとしての活用を一般化する。

※1：文部科学省 HP「STEAM 教育等の各教科等横断的な学習の推進」より引用

### 【STEAM教育項目対応マップ】

例：農業・福祉 → 昨年度まで開発の農福連携実習をスキームアップ

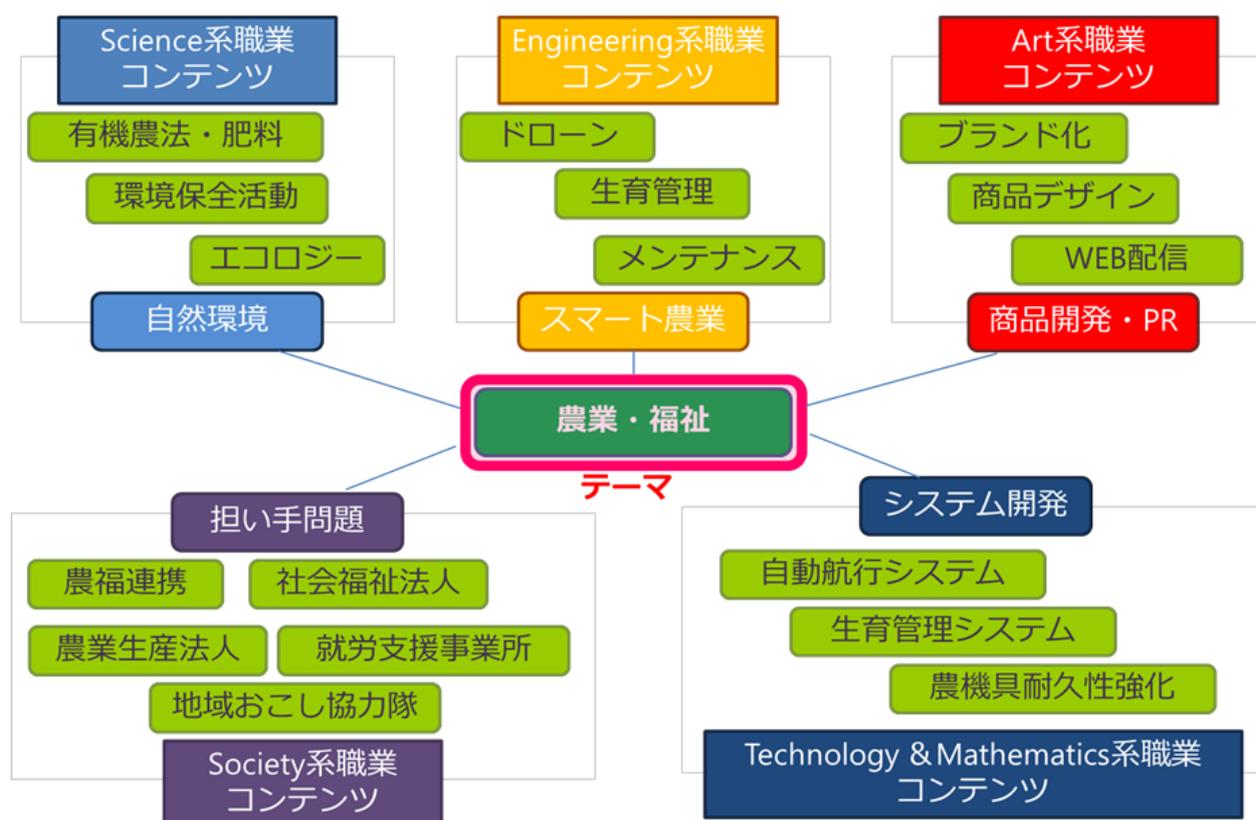


図2：職業教育とSTEAMの連携の一例

## ■職業学習コンテンツの教材内容について

令和3年度からの開発コンテンツの内容を図4にまとめた。すべての学習内容に動画コンテンツが用意されており、何度でも視聴可能となっている。今年度は農業用のコンテンツ内、水稻栽培の7項目について、専門家（水稻農家）の監修のもと、コンテンツ動画を作成した。実際の田植え作業の手順を5分程度の動画にまとめ、スマホやタブレットでいつでもどこでも学習できる内容とした。

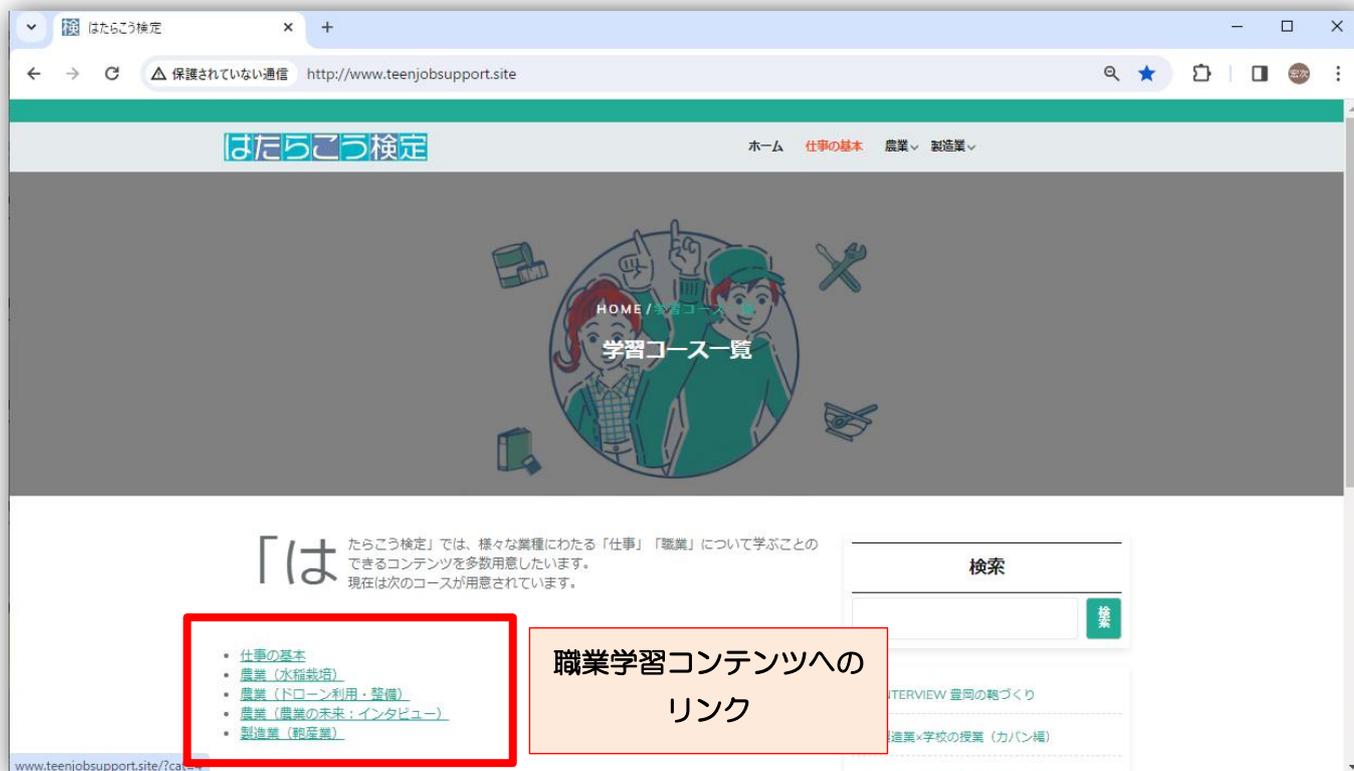


図3：『はたらこう検定』スタート画面

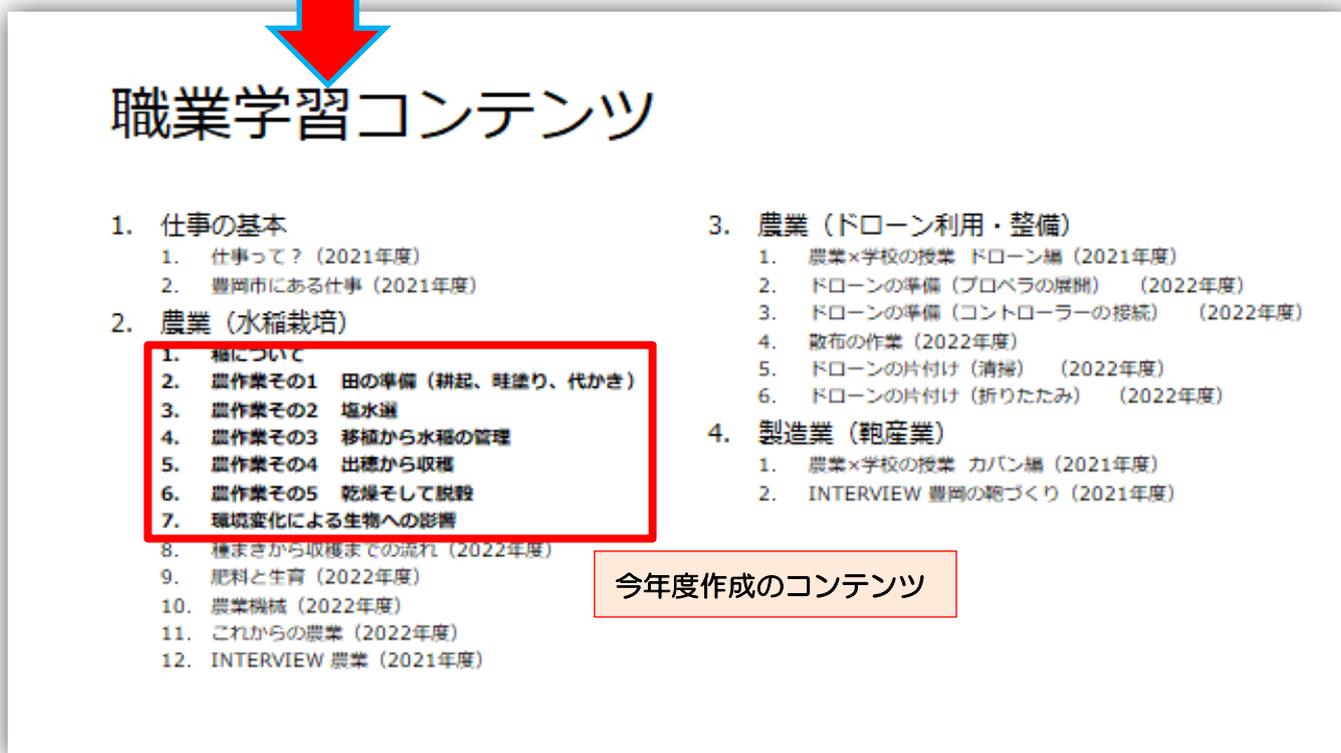


図4：令和5年度版職業学習コンテンツ一覧

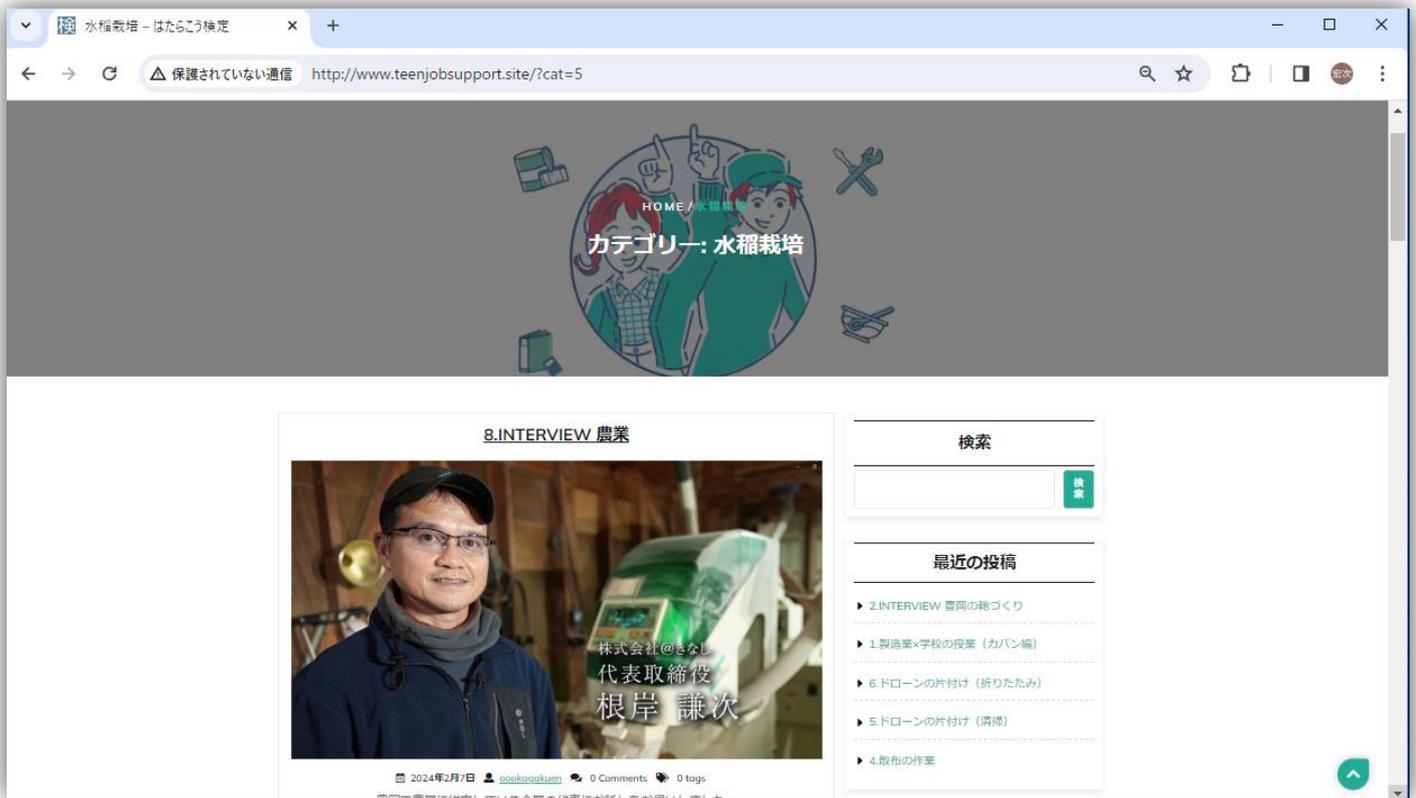


図5：農業（水稲栽培）カテゴリートップ

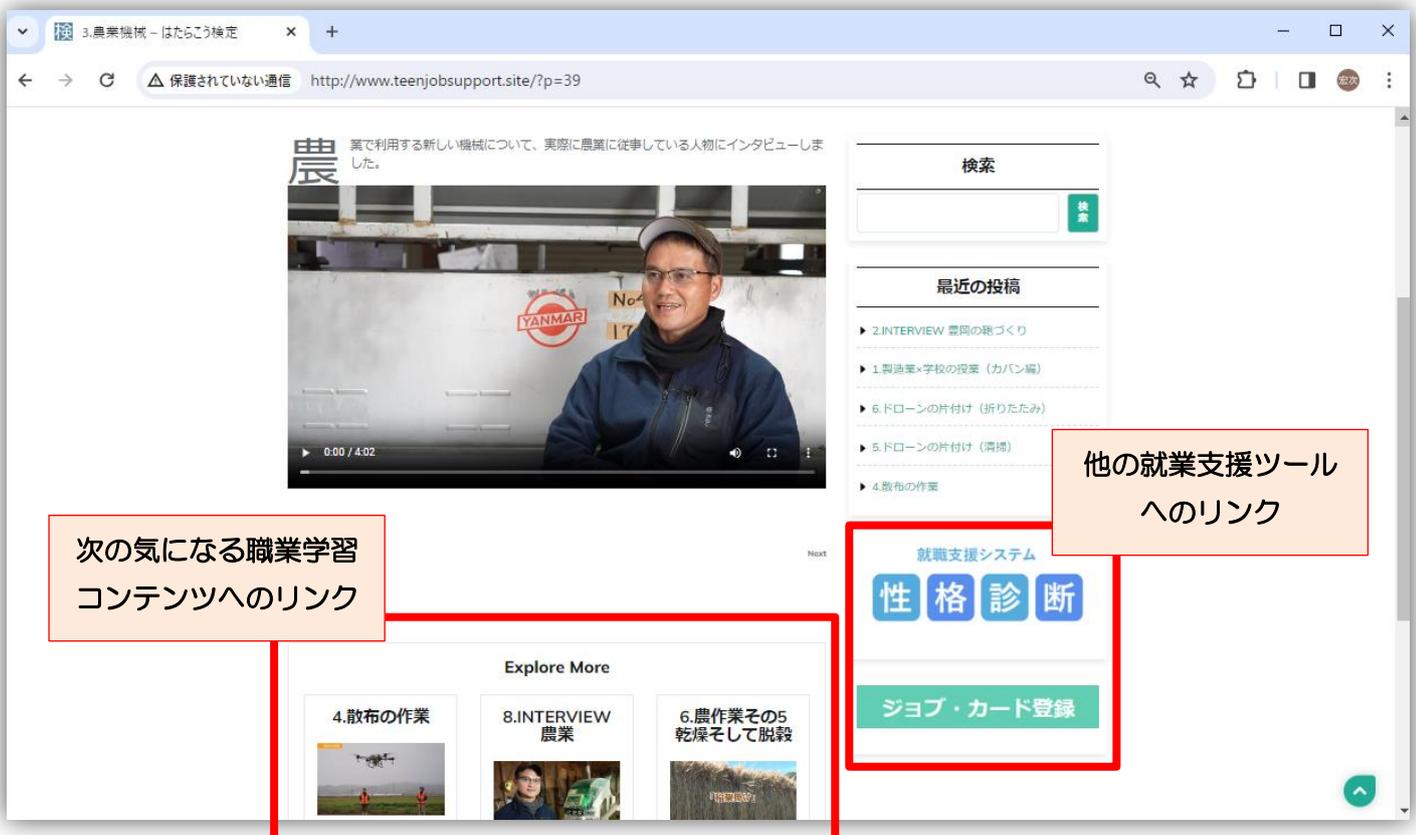


図6：農業（農業の未来・インタビュー）画面構成

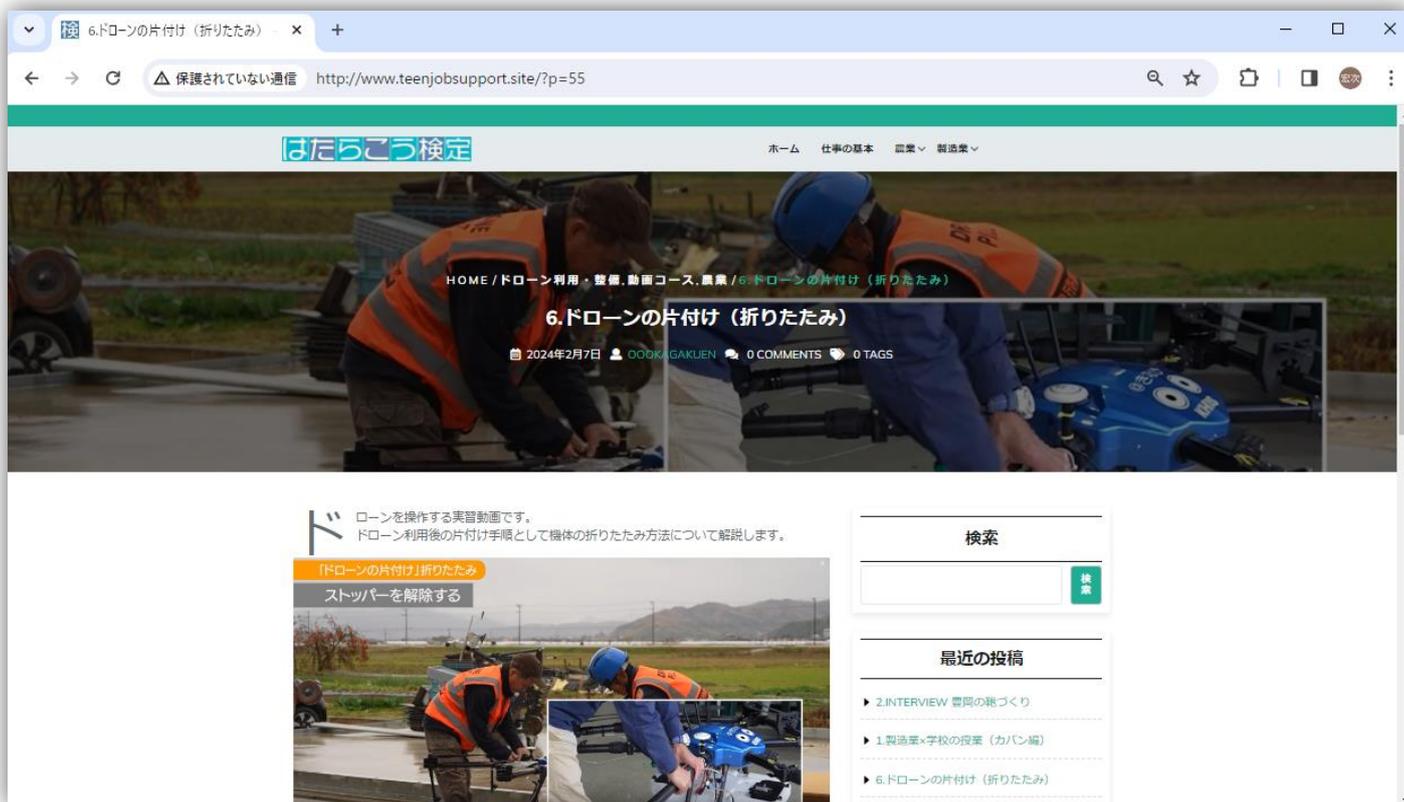


図7：農業（ドローン利用・整備）カテゴリ内画面構成  
 ※画面はカテゴリ内の6番目の動画コンテンツを選択した状態

### 4-3 『就職支援システム 性格診断』と『高等専修学校版ジョブ・カード』の連携

3年間の事業期間中に開発した2つの支援ツールが、最終年度に連携が完了した。次の図8は、高等専修学校版ジョブ・カード内の入力項目である。職業学習コンテンツともリンクしている。

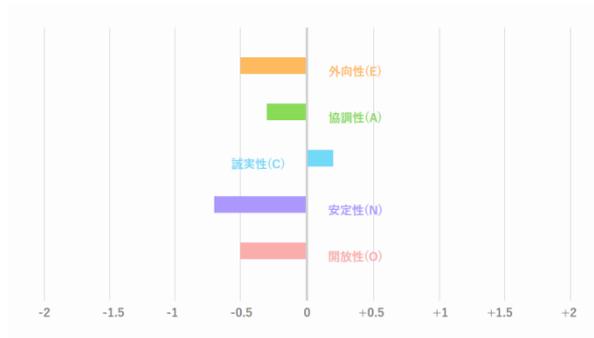
## 高等専修学校版ジョブ・カード

1. 基本情報
2. 学校の課程で関心を持って取り組んだこと・取り組んでいること
3. 学校のキャリア教育で実施される科目・プログラム、インターンシップ(正課)への参加・取組状況
4. 学校の課程以外で学んだ学習歴
5. 社会体験その他の活動(サークル、ボランティア活動、正課外のインターンシップ、留学、アルバイト、その他の活動)
6. 職務経歴(※アルバイト歴を登録する)
7. 職業能力証明(免許・資格)
8. 職業能力証明(学習歴・訓練歴)
9. 支援シート(※教員が登録)
10. 達成度評価(※教員が登録)

これらに入力できるスキルとしての  
学習コンテンツを開発

図8：高等専修学校版ジョブ・カード入力項目

## 性格診断結果画面



## 診断結果

外向性(E)	Rank C	時と場所に合わせて話し手にも聞き手にもなる
協調性(A)	Rank C	求められればチーム共同作業でも、単独作業でもできる
誠実性(C)	Rank C	頼まれれば短時間・長時間問わず、取り組むことができる
安定性(N)	Rank D	他人の目が少し気になる、不測の事態には弱い
開放性(O)	Rank C	周りのやり方に合わせて、自分のやり方も変えていく



## 総合結果

孤立型が強い性質です。自分の世界を持っていて、他人とはあまり関わらないタイプです。適職は、一般事務職、職人です。自分の世界でコツコツと進めるのが好きなので、職人や他人と関わらない事務に向いています。

性格診断結果の下に  
ジョブ・カード情報を掲載

## JOBカード情報

[すべて開く](#)
[すべて閉じる](#)

基本情報	▼
学校の課程で関心を持って取り組んだこと・取り組んでいること	▼
学校のキャリア教育で実施される科目・プログラム、インターンシップ（正課）への参加・取組状況	▼
学校の課程以外で学んだ学習歴	▼
社会体験その他の活動（サークル、ボランティア活動、正課外のインターンシップ、留学、アルバイト、その他の活動）	▼
その他	▼
職務経歴	▼
職業能力証明(免許・資格)	▼
職業能力証明(学習歴・訓練歴)	▼
こうすると伝わりやすい ※教師記入欄	▼
達成度評価 ※教師記入欄	▼

[すべて開く](#)
[すべて閉じる](#)
[戻る](#)
[診断結果一覧へ](#)

図9：統合されたWebページの画面

## 4-4 就業支援ツールを用いた実証講座について

今年度の第1回及び第2回事業合同委員会で特に話題となった、『就職支援システム 性格診断』による生徒の性格及び適職診断の結果を踏まえた企業への就業マッチングに対する不安について、この診断結果を企業に提示して、その結果をもとにして企業側が採用したい生徒を選ぶというようなシステムとして誤解されている部分があった。『就職支援システム 性格診断』はあくまでも生徒自身が自己について知るきっかけとするひとつのツールであり、その診断結果は客観的なものであるということを事前に生徒に説明し、理解してもらった上で活用している。

『就職支援システム 性格診断』の利用方法としては、①生徒がインターンシップ等の就業体験を希望した際に、生徒にとってより効果的な就業体験となるよう、受け入れ先の企業での活動内容と本人のできることを、企業とともに事前にマッチングさせるためのひとつの情報として活用したり、②定期的な性格診断をする中で、診断結果に大きな変化が見られた生徒に対して、担当の教職員が声掛けをするなどのように、生徒の様子の変化を客観的に知るひとつの手段としたり、などがあげられる。生徒を抜きにしてこのデータのみを関係先に提示することはない。企業側としてもインターンシップで受け入れる生徒も、採用する就職希望生徒も、その特性を事前に知ることで、職場環境の整備や特性を生かした業務内容を検討することができるため、採用に前向きになれるというご意見は、昨年度までにいただいている。

以上の点を踏まえた上で、今年度も定期的に性格診断をはじめとした就業支援ツールを使った実証授業を行った。今年度の対象は、2年次より継続して本ツールを利用している、本校3年生ジョブトレーニングコース15名と、はたらこう検定等の新コンテンツの利用も含めた実証を、本校2年生ジョブトレーニングコース26名で行った。

利用方法としては、『就職支援システム 性格診断』については月に1回程度（長期休業期間を除く）を対象学年で実施。3年生ジョブトレーニングコースでは、昨年1月から今年1月まで、2年生ジョブトレーニングコースでは、今年4月から実施した。

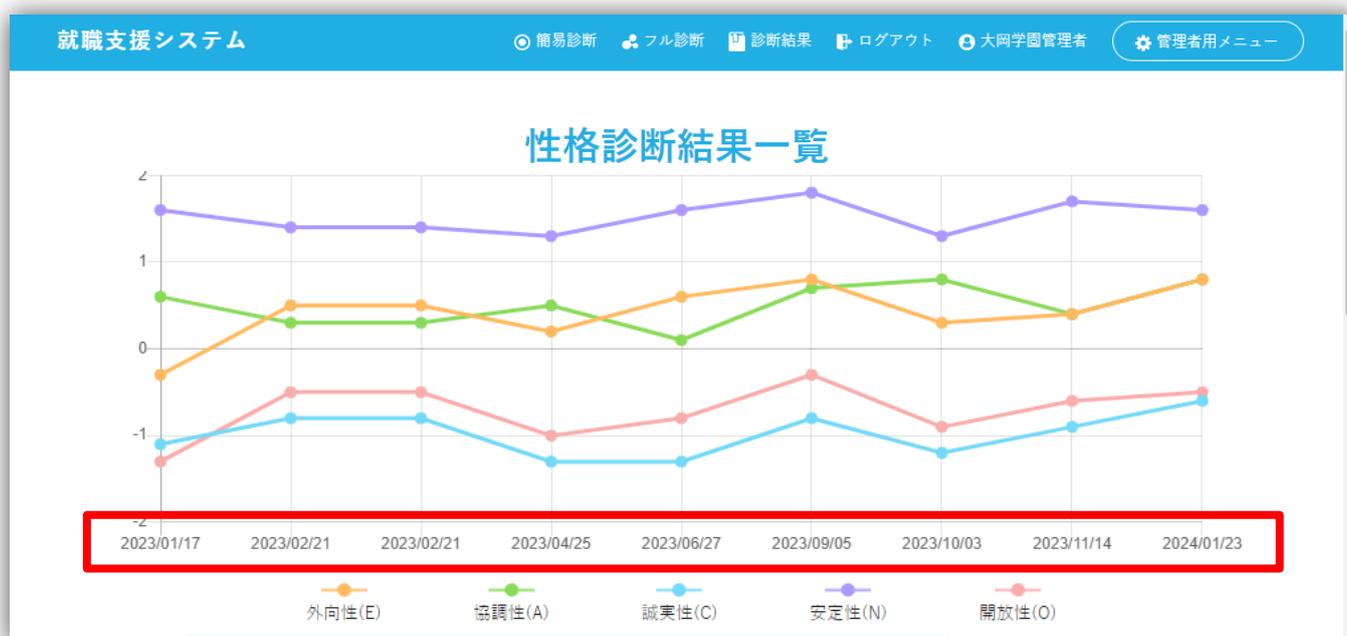


図 10：3年生ジョブトレコース生徒の『就職支援システム 性格診断』実施日

## ■『就職支援システム 性格診断』客観的診断結果の信頼性について

次の図 11 は、本支援ツールの診断結果に関して、2023 年 1 月から約 1 年間利用したジョブトレーニングコース 3 年生にアンケートをした結果である。

「違和感がない」生徒が半数以上を占める中、「一部に違和感がある」生徒も 15 名中 4 名(27%)あった。違和感がある部分は以下の通り。

- ・概ね合っているが、最後の『適職診断』に違和感がある。
- ・総合結果は合っているが、外向性が高いのは違和感がある。
- ・分からないが、合っているところもある。
- ・性格分析型が『リーダータイプ』になるのが分からない。秘めているものがあるのか？

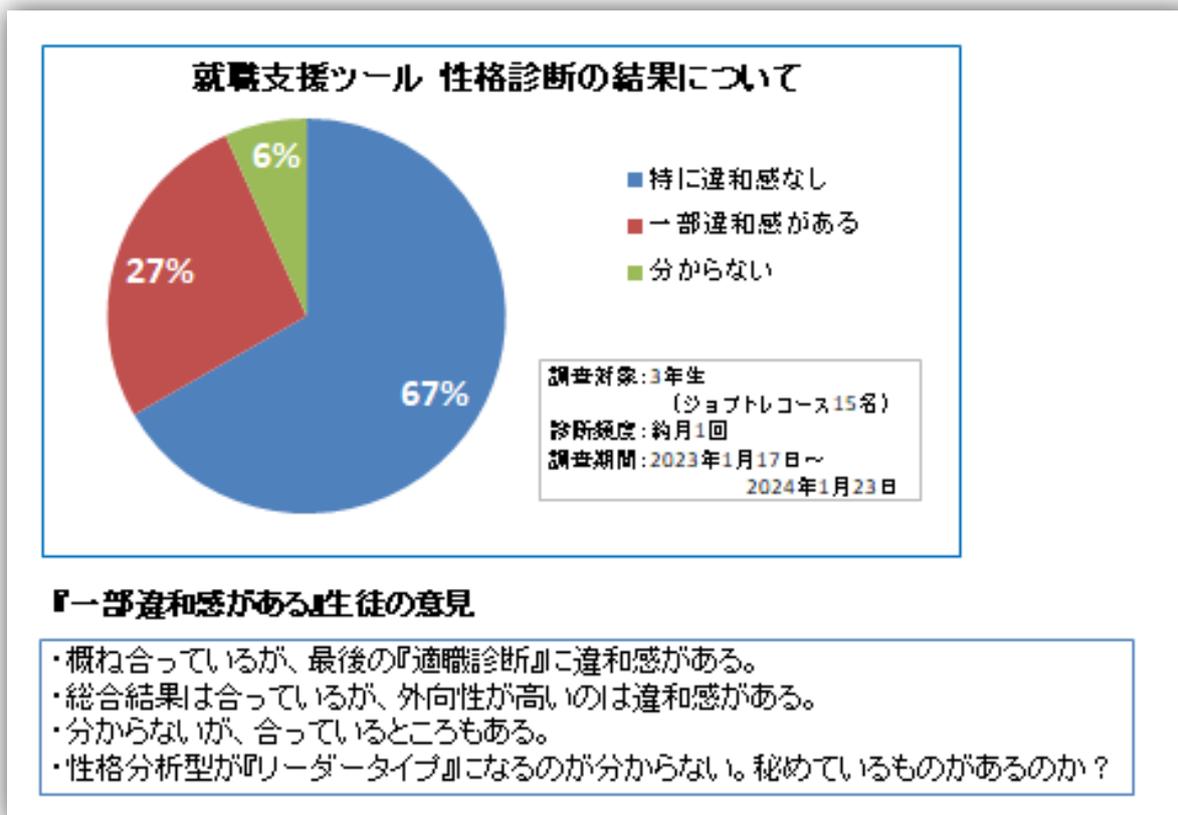


図 11：『就職支援システム 性格診断』結果について（ジョブトレ 3 年生）

あくまでも客観的な診断であり、この結果が全てではないことを生徒は理解しているが、このように違和感に気が付くことも自分自身を知る上で重要なことであるといえる。

## ■キャリアサポートノートを使った『高等専修学校版ジョブ・カード』の作成

- ①実施日：2023 年 9 月 13 日（水） 3 限目、4 限目
- ②対象学年・コース：大岡学園高等専修学校 2 年生ジョブトレーニングコース
- ③受講者数：26 名

昨年度の実証講座では、『高等専修学校版ジョブ・カード』の入力作業において、①時間内に必須項目を全て入力することが困難なケースが多数見られた点、②意外にも自宅の住所、郵便番号、自宅の固定電話番号、自分自身の携帯電話の番号といったパーソナルな情報の入力が進まない生徒も多くあったという点、以上 2 点の課題があげられた。それを受けて昨年度作成したキャリアサ

ポートノートを使った実証講座を行った。

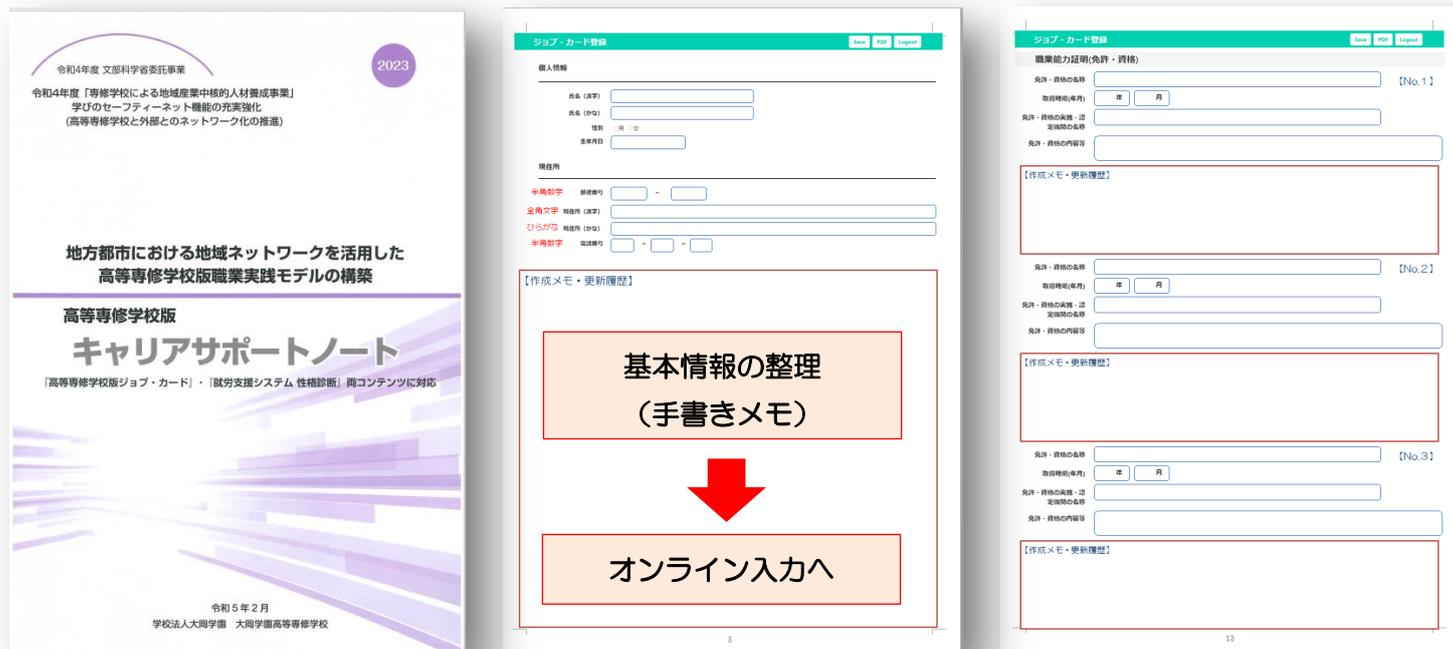


図 12：キャリアサポートノートと『高等専修学校版ジョブ・カード』作成前の作業ページ

このノート内には、『高等専修学校版ジョブ・カード』の入力作業前に必須事項をメモするページ (図 12) があり、必要な生徒については事前に作成して入力作業に臨むことができる。このノートを利用することにより、受講生徒全員が必要項目の入力を完了することができた。

### ■『はたらこう検定』職業学習動画コンテンツの利用

- ①実施日：2024年 2月 14日 (水) 3限目、4限目
- ②対象学年・コース：大岡学園高等専修学校 2年生ジョブトレーニングコース
- ③受講者数：26名

農業 (水稻栽培) から農業機械 (ドローン) まで、2時間で実施。本コースの生徒の中には、ドローン操縦士の資格試験に興味を持つ生徒が19名在籍しており、ドローンを使った地元でのビジネスにも興味津々であった。



図 13：実証講座の様子

開発した職業学習コンテンツは、STEAM 教育のノウハウを活用したものであるため、水稻栽培というテーマに、普段学校で学ぶ内容（科目学習の内容）がどのような形で関わっているかを取り入れた内容となっている。例えば図 14 は農業とサイエンスとの関わりを、図 15 は農業とテクノロジー（機械の仕組み）とサイエンス（適切な薬剤の種類と風向き）との関わりがそれぞれ取り上げられている。



図 14：稲の生育の仕組み（農業×サイエンス）

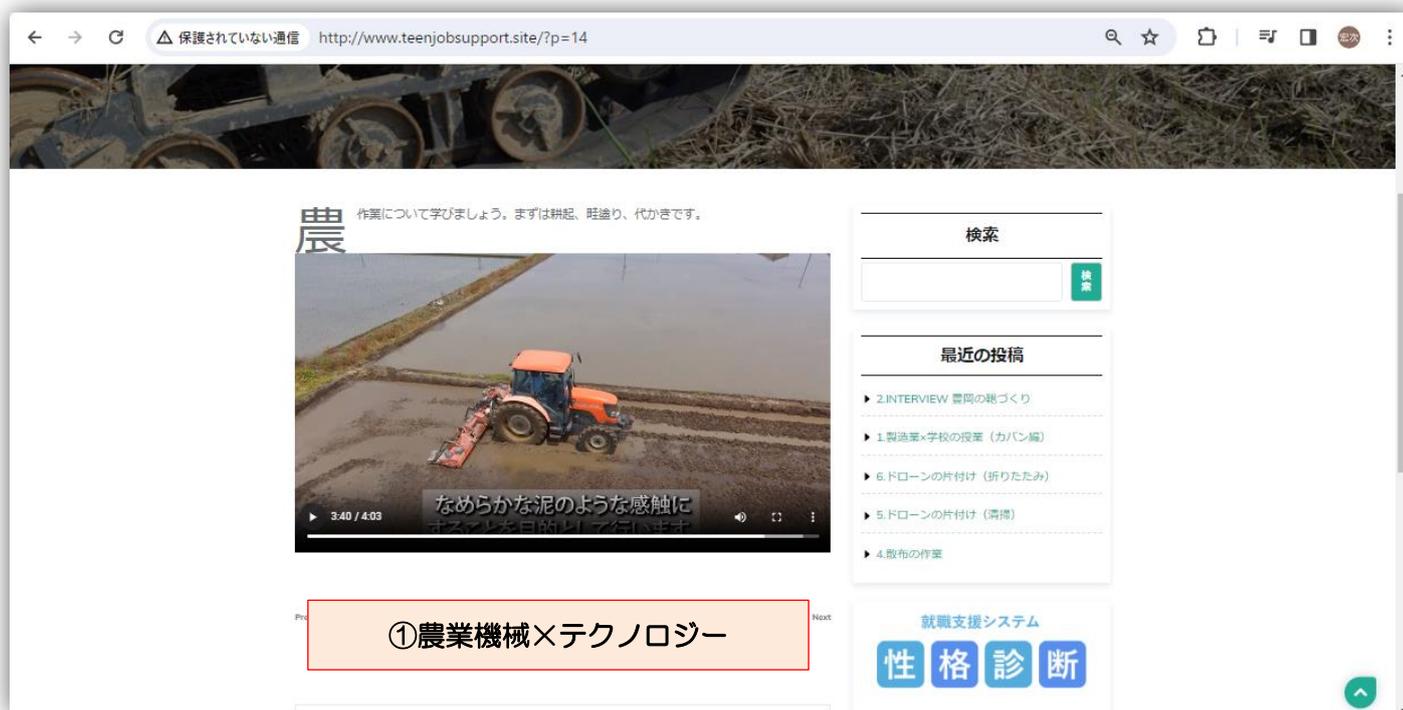




図 15：農業機械の利用・スマート農業（農業×テクノロジー×サイエンス）

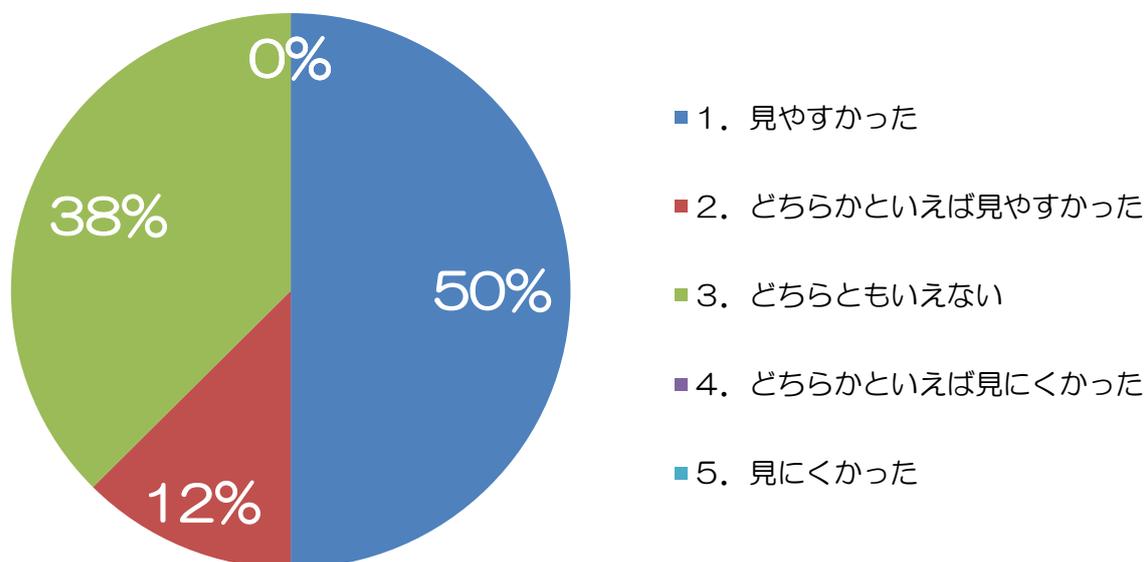
また、実証講座では実習作業として、ドローンの散布に関する簡単な数学の問題（農業×マスマティクス）も試した。



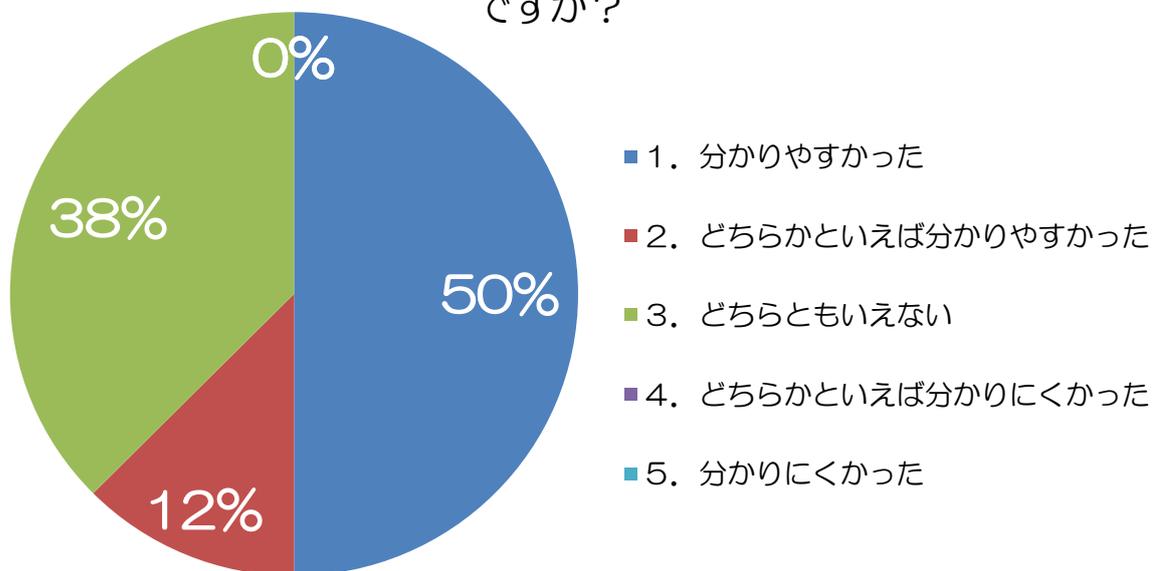
図 16：農業×マスマティクス実習

●職業学習コンテンツを受講して（受講後アンケート）

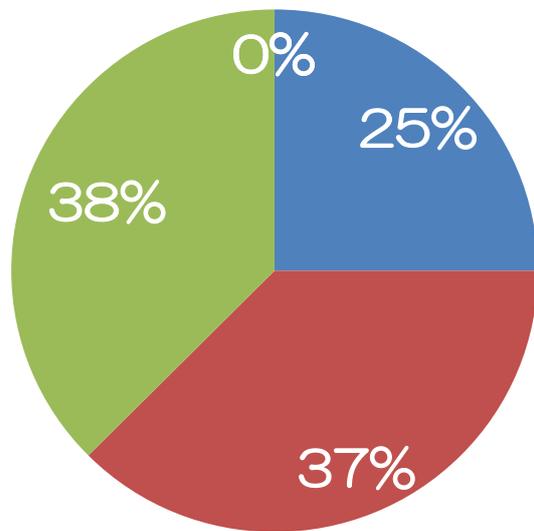
問1：職業動画は見やすかったですか？



問2：職業動画の内容は分かりやすかったですか？

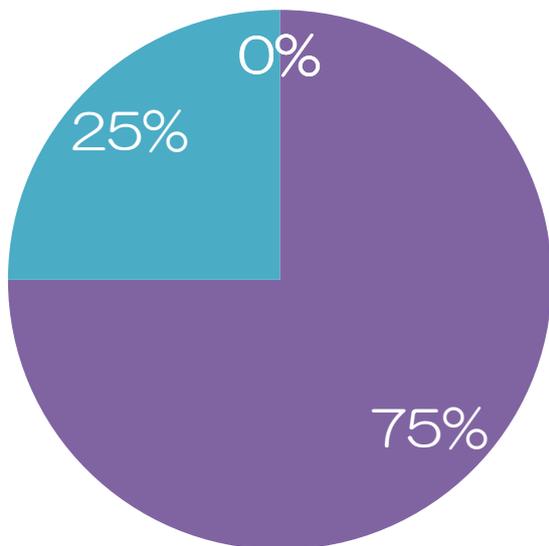


問3：職業動画を見た後に、その職業に関して理解が深まりましたか？



- 1. 理解が深まった
- 2. どちらかといえば理解が深まった
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえば理解は深まらなかった
- 5. 理解は深まらなかった

問4：今回視聴した職業動画の内容（仕事）を、実際にやってみたい（体験してみたい）と思いましたが？



- 1. やってみたいと思った
- 2. どちらかといえばやってみたいと思った
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばやってみたいと思わない
- 5. やってみたいと思わない

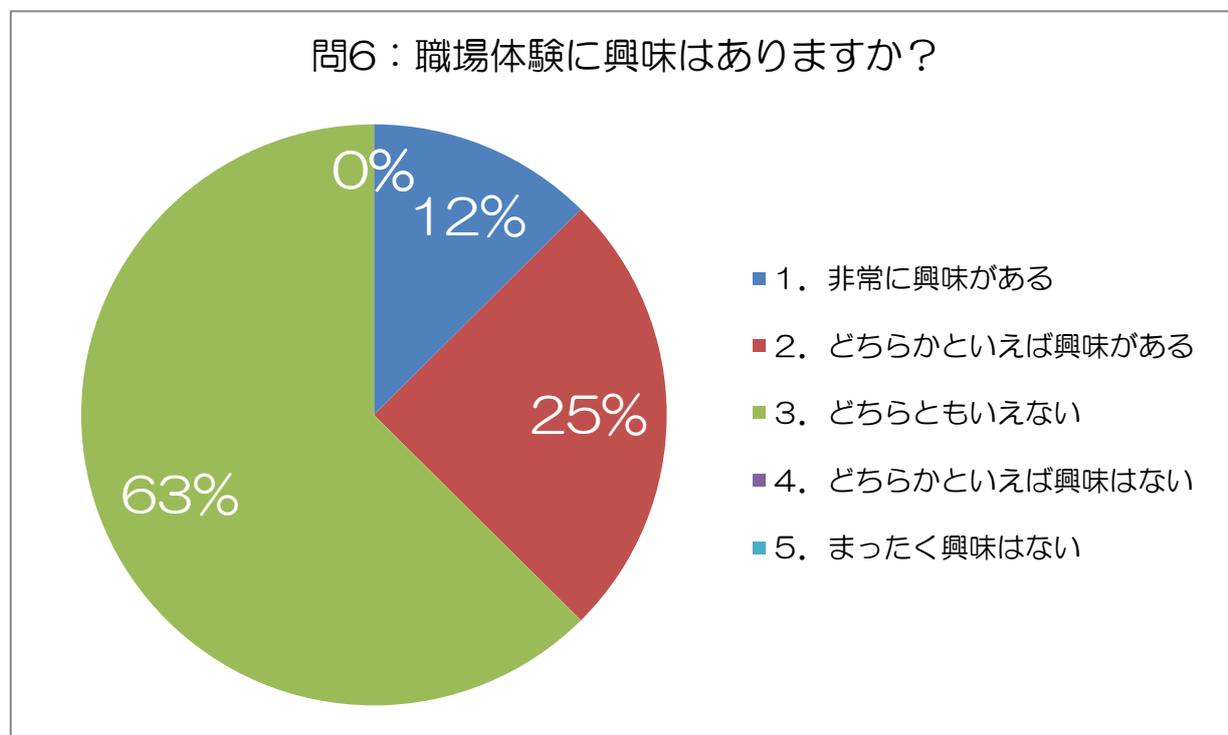
※今回は農業（稲作）

※自発的に職業コンテンツを選べる状況になれば、この項目は改善されると思われる。

問5：今回視聴した職業動画以外で、動画があったらいいなと思う職業をひとつあげてください。

- サービス業
- 接客
- 動物の飼育員
- 事務 経理系

問6：職場体験に興味はありますか？



●実証講座で浮かび上がった課題

特に職業学習コンテンツに関しては、開発の初期段階の目的が、コロナ等の感染症をはじめ、何らかの事態で今後学校が休校になった際に、どこでも通信端末を利用さえすれば学習できるコンテンツ作りであったため、一律に同じ分野の職業コンテンツを対面授業で行う事には向いていない部分もあると感じた。農業やドローンなどに興味がない、あるいは不向きな生徒は手持無沙汰な様子も見られた。受講後アンケートの問4あたりにその結果が出ている。

また、オンライン上で記録を残していくことが重要な世の中であるが、生徒の中にはオンラインサイトにアクセスする場所が毎回分からなくなり、オンラインでの作業に取りかかるまでに時間要

する様子も見られた。そのような生徒には手元での情報管理が有効で、サポートノート等の活用も必要であると改めて感じた。

さらに、『就職支援システム 性格診断』や『高等専修学校版ジョブ・カード』の作成サポートを通して生徒と向き合うと、近い将来のイメージが持てていないために、今から何をすればよいかもイメージできていない生徒が多い事に気が付いた。今年度は、各学年のジョブトレコースの生徒に図 17 に示したライフプランニングシートの作成にチャレンジしてもらった。とにかく近い将来、自分自身がどうなるかをイメージし、自分に合ったやり方でやりたいことを探すきっかけを、早い段階で見つけることで、日々の学校生活が充実することにつながると確信している。

未来をイメージしてみよう！

記入日      年      月      日

年齢	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90
目標・夢・出来事																	

	10代	20代	30代	40代	50代	60代
やってみたいこと						
できるようになりたいこと						
欲しいもの						
将来の目標						
将来の夢						
仕事を選ぶときに大切なこと	No.1		No.2		No.3	

図 17：ライフプランニングシート

以上の課題を踏まえ今年度は、昨年度作成した『キャリアサポートノート』の内容を踏まえつつ、職業学習コンテンツが追加された就業支援ツール『はたらこう検定』の学習履歴もメモできるページや、図 17 のライフプランニングシート、実際の職場実習を記録するページなどを新たに追加した完成版『ライフプランノート』を作成した（図 18）。記録を残す、日報を書く、メモをするなどの習慣は、ビジネスパーソンとして必須のスキルであるが、日頃からの意識付けが重要となってくるため、本ノートを利用することでその部分の効果も期待している。

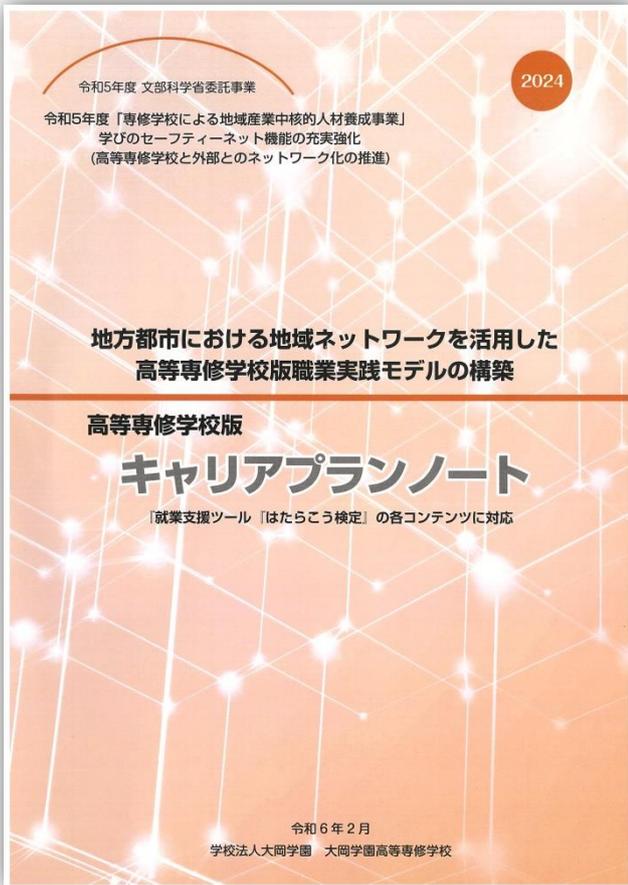


図 18：就業支援ツールサポート用『キャリアプランノート』（一部抜粋）

## 4-5 就業支援ツールの今後と高等専修学校版職業実践モデル

就業支援ツールの開発目的は、生徒自身に関わる様々な部分の見つめ直しや気付きの中から、自分自身の特性を見出し、将来必ずやってくる『就業』に向けての準備、自己理解を促すきっかけを提供することである。学校、あるいは企業も含めたサポートする側も、この情報を分析・共有することで、生徒のより良い『就業』へつなげていくことが使命となる。

今年度で一応の完成版とした本支援ツールであるが、特に職業学習コンテンツに関しては、「農業」と「製造業」しか分野がなく、職業が選べない状況にある。第3回合同鍵でも各委員に呼びかけをしたが、コンテンツ作成に協力していただける企業（分野）が必要である。企業と一緒にこの支援ツールを充実させていくことが必要であり、それがいわゆる「職業実践」の専門的な学校となるための必須条件となってくると考える。

高等専修学校版『職業実践』モデルのイメージは、各業界・業種で必要となる人材の基本的スキルを、高等専修学校在学中に習得させておく。その習得カリキュラムは企業側とともに作成する。講師として職人さんがやってくる。対面で授業が受けられない生徒は、就業支援ツールの職業学習コンテンツでいつでもどこでも職人さんの技術を学べる。最終的に在学中に自分が興味を持った職業の基本的スキルとなる資格試験を受験し技術を習得する。そして就職へ。もちろん、「自分のやりたいことを探す」も「5年後にどうなっているか？」も本支援ツールでサポート可能である。

企業と行政及び各支援機関と高等専修学校の強力な連携によって、若い世代の前向きな『就職』の実現と、地方都市の人材不足解消へのヒントが得られることを期待したい。

## 第5章 まとめ

今回、わたしたちは、就業先、学校、生徒、社会について考え最善の方法を模索してきた。

その行為やデータはこれからの特性を持つ人材の方を採用する企業や周囲の環境にとって何か変化をもたらしていく第1歩であると思う。

前に進むことが大切ではなく、振り返って過去の状況も学習し、未来へと繋げていくヒントを得ることも必要なのである。

わたしたちが試みた事象は単にアンケートで終わる成果物ではないのである。

多様性のある人間には、多様性のある職場や多様性を理解している同僚に囲まれて仕事を目指していくと、必ず労使ともに成長を促していける将来重要な課題が見つかるに違いないと思える。

わたしたちは、最終3年目となる事業の方向性として、地域で活躍し貢献している特性を持つ人材の皆さんの実際の職場環境や活躍の場を提供していただいている企業の皆さんのご意見を伺い、成功例と失敗した課題を真摯に受けとめながら、特性ある生徒や多様性を持つ生徒の職業現場における実態を把握し報告できるように協議と議論を積み重ねていくことを志していこうと考えています。

現実と考える方向性とは相違が生じてきます。しかし、重要なのはより平等で働き方改革を進めることとは同じだと思えます。

わたしたちの老後の暮らしを考えれば就労人口を減少させてはいけません。

そのためには、社会の多様性と人間の多様性を認め合う環境を作る必要があります。

最終年度は、特性を持ち、多様性ある人間の労働環境を調査し、ご報告していくことが次のステップであります。

2020年度の3年以内の離職率は、全国平均で高卒が37%、大卒が32%となっており、前年度から比べて1.1ポイント増加している。

この結果から見えてくるものは、働き手が仕事を覚え、企業の柱となって貢献できる手前での離職者が増加している。即ち、使用者側にとってはダメージも大きいと予測される。

この関係性を最近の傾向として捉えて、近年の社会情勢やDX普及によるものとして問題視せずに進めていくことは、十八歳の生徒の将来にとって警笛を投げかけているように感じている。

以上のことは、文科省の委託事業を通して見えてきた労使関係並びに教育環境、社会環境の課題を掘り起こしたといえよう。問題が明確化し浮き彫りになった今、課題解決の糸口と解決策を至急に考慮し研究していく必要がある。

委託事業を通じて見えてきた真実と建前は、送り手側と受け手側との相互関係維持の重症性であるといえよう。しかるに、今後は高等専修学校の生徒の実態をどのように伝えていくのか、更に、就労意欲を向上させて、個々の特技を高めるためにはどのような方法があるのかを検証する必要がある。

受け入れ先に於いては、支援を必要とする生徒の特徴を理解してもらう事、そして、適材適所の働き方を進めていただくためには、社内環境と風土を作っただけの経営努力を継続的に行っていただくことが両者の利益を生むヒントだと考える。

今後、地域に根ざした就労を目指すにあたり、第一に、受け入れ側に積極的に理解していただくことを進めることである。それには、高等専修学校の取組を理解していただき個々の特性を分かち合う必要性が重要である。

文部科学省委託事業  
令和5年度「専修学校による地域産業中核の人材養成事業」  
学びのセーフティーネット機能の充実強化  
高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進

地方都市における地域ネットワークを活用した  
高等専修学校版職業実践モデルの構築

### 事業実績報告書

学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校  
令和6年2月

連絡先：〒668-0065 兵庫県豊岡市戸牧 500  
学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校  
TEL：0796-22-3786 FAX：0796-24-2282

●本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます